



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

三大煩惱

寺務部長 細井孝尚

「三大煩惱」という言葉をお聞きになられた事はございませんでしょうか。全部で百八あると言われる煩惱、私たちを苦しませ悩ませる大きな煩惱を代表して仏教においては【貪欲】、【瞋恚】、【愚痴】の三毒として、説明されております。

これらの煩惱をそれぞれ分かり易く表現致しますと、【貪欲】は「むさぼり、汚い心」。【瞋恚】は「怒り、恐ろしい心」。【愚痴】は「迷い、醜い心」になります。

今回は【貪欲】「むさぼりの心」に焦点を当てたいと思います。この「むさぼりの心」には際限が無く、また尽きる事がありません。この様な状況が絶え間なく「欲」を生み出す要因の一つに挙げられます。

「欲」そのものが生まれる事は人である以上、自然なことだと思えます。しかしその欲が何かを貪るように激しくなってきましたと、非常に苦しい思いをするようになります。ではそのように苦しみを感じる時、一体どのようにすればよいのでしょうか。

まず一度「食りの心」から離れるために、心を落

ち着かせる事が先決です。当山においては、その一つの方法と致しまして大根をお供え頂きます。その大根には【瞋恚】の心を表すと言われておりますが、ここでは三毒を代表した形で、大根をお供え頂く事により、私達の心を清めて頂く事になります。体内の毒素を中和して消化を助ける働きがある事から、聖天様の「おはたらき」を表すものとして尊ばれております。

人にはそれぞれ様々な欲があります。しかしその「欲」は必ずしも悪いものとは言いません。目標に対しても何かしら強い「欲」が働き目標達成に繋がる場合は、良い「欲」ともなりえます。「欲」そのものに善悪があるのではなく、あくまでも原因に着目する事が大切という事だと思えます。

聖天信仰において、大根をお供えし、本堂で手を合わせる際、形式的に手を合わせるのか、もしくは、ご自宅を出られる際から気持ちを整え、厳かな気持ちで参道を歩かれ本堂へ向かうのか、その過程を今一度意識して頂く事が知足安分であり、同時に「欲」に対する一つの答えに繋がるのではないのでしょうか。

七月御縁日大法要・行事紹介

出世観音供養会

七月十七日(土) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

ご真言 オン アロリキヤ ソワカ

当山出世観世音菩薩は、昭和九年本堂復興再建の折り、境内の整地作業がすすめられました際に西南の隅の土中より、

観音様のご尊頭そんずが発見され、当時のご信徒そんたいの浄財によりご尊体を造像し、昭和十一年十一月十七日出世観世音菩薩として開眼供養が執り行われました。

奇縁によって再び

出現された観音様は世に出でようと願う

多くの方々から信仰を集め、芸事成就、立身出世、学問成就など、今もなお真剣に手を合わされお参りされている方のお姿が絶えることはありません。出世観音様とご縁を結ぶためにぜひご参加ください。



常香講

七月二十日(火) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

本龍院では数種類の「お香」を用います。一般的な「お線香」をはじめ、「塗香」や「抹香」なども用います。灯明や献花と並び、お香は仏様を供養するための代表とされ、莊嚴しょうげんにおいても、参道の中央にある大香炉も中心に配置されており、塗香には身体を清め、精神を安らかにするという意味があり、それにより無量の功德を得ると云われております。

また、法要中は焼香や抹香を焚き、本堂全体を浄め、清浄の空間に致します。ご信徒の皆様が心静かにさわやかな気分でお参りができますようにとの願いを込めて、お香を供養する常香講が執り行われます。

講中にお申込みいただきますと、ご自宅等お使い頂けます。塗香をお授けいたします。

出世観音供養会ならびに常香講法要当日は一般参拝は出来ません。ライブ中継を行いますので、

ご自宅で一緒に出勤めください。(詳細は三面参照)



待乳山使り

大般若講 報告

例年より早い梅雨空が少し見え隠れし始めた五月二十日、『大般若講』を執行しました。本年もコロナの影響により、昨年同様『香湯加持会』は中止とさせていただき僧侶のみ、総代ご随喜のもと執り行いました。

来年よりご信徒の皆様にお加持を授けられるよう早期の収束を願っております。

額堂テーブル新調

額堂のテーブル2台を新調しました。現在はコロナの影響で主に御祈祷申込用としてご利用いただいておりますが、収束後は快適な休憩処として皆さまにご利用いただければ幸いです。



寺務所 清田美恵子

『縁』えにし

幼き日の浅草の思い出は浅草寺をお参りしたあと境内の鳩に豆をやり、仲見世の小間物屋では簪の美しさに心を奪われた楽しい一時。帰りには松屋デパートの屋上で絡繰り人形の仕草が興味をそそるおみくじを引くという下町情緒豊かなものでした。

気がつけば浅草にお勤めすることとなり、それまで知らずにいました信仰の地で、ご信者の方々とお会いご縁を頂きました。病氣や怪我もなくこれまでこられましたことは聖天様が守って下さったことと感謝せずにはいられません。

江戸の頃に作られた長唄の中に「待乳山」がよく出てまいります。有名な「娘道成寺」や隅田川の春から夏の情景を唄った「都鳥」などが代表的なものです。

浮世絵展の作品の中にも大根を携え参詣する方々を見ることができ、古くからの習わしが今へと受け継がれていることに思いを馳せます。祈禱を申し込まれるお一人お一人の思いを大切にお受けすることで二十三年が経ちました。ご遠方からの方、若い方のお参りも増えていることは大変喜ばしいことです。多くの方が聖天様に心を託し、わだかまりや迷い煩う心から解き放たれ良い気付きを示していただけたらよう願っております。

『詣で来る人をまつちの山かぜにまよひの雲は払ひはてけり』の歌にありますように清々しい境地を得られますようお願い申し上げます。

仏具解説『杵（金剛杵）』しよ こんごうしよ

一般的に僧侶が手に持つものとして、皆さんがイメージしやすいものは数珠ではないでしょうか。今回は、数珠と同じくご祈禱やお加持する際に用います、密教の仏具の一つ「杵（金剛杵）」についてお話しをしたいと思います。この杵の事は、サンスクリット語でヴァジュラ、チベット密教ではドルジェと呼ばれています。

この杵には幾つかの形があり、両端がひとつの突起になったものを「独鈷」、三股のものを「三鈷杵」、五股のものを「五鈷杵」といいます。どの杵も、魔をうち砕く力を秘め、困難や煩惱を振り払う法具として用いられます。

五鈷杵の五鈷の一方は、大日如来の五智を表し、反対側の五鈷は、五欲煩惱を表し、そして柄によって両端がつながっている事が、それぞれが別個の存在ではなく、五欲（五悪）が五智（仏の智慧）により打ち砕かれ制御される時にこそ、加持力が与えられるとも言われています。

また、お寺の入り口で見かける「金剛力士像」ですが、金剛力士はサンスクリット語で「ヴァジュラダラ」といいます。ヴァジュラ（＝金剛杵）+ダラで「金剛杵を持つもの」という意味になります。ぜひ手に持っている杵（金剛杵）を確認してみてください。



諸行事参加について
コロナ禍が続いておりますが、現在の諸行事の参加ならびに申込方法をお知らせいたします。

◎朝まいり会・写経の会

朝まいり会、写経の会を予約制となっております。朝まいり会は毎月一日から七日の中からお一人一日のみ参加できます。定員は一日十名です。

写経の会は第二日曜日とその前日の土曜日の計二日、それぞれ定員二十八名で午前十時のみの開催となります。

いずれも毎月十五日より、翌月分のご予約を専用電話番号にて、ご本人様のみ受付いたします。

予約電話番号 080-7419-1297

朝まいり会はライブ配信がございますので、ご利用ください。

<http://www.matsuchiyama.jp/sasamairi6.html>

◎諸講、合同大般若法要

当面の間、当山僧侶のみで執り行ないます。

ライブ配信がございますので、ご利用ください。

お申込み頂いたお札、お供物等は法要終了後より受け取り可能です。

<http://www.matsuchiyama.jp/houyoulive.html>

◎日曜勤行、坐禅の会

当面の間、中止とさせていただきます。

※今後の情勢に応じて、変更する場合がございます。

七月行事予定

御縁日大法要

出世観音供養会

七月十七日(土) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

参道の出世観音様をご供養いたし、特に学業・芸事・開運・出世をご祈願します。

常香講

七月二十日(火) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

ご祈祷に用いるお香を供養いたします。

※法要は僧侶のみで行います。ご信徒様におかれましては、ご自宅でのお勤め、またはライブ配信をご利用ください(詳しくは三面をご覧ください)

朝まいり会

七月一日〜七日

午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

※事前予約制 詳しくは三面をご覧ください

写経の会

七月十日(土)、十一日(日)

午前十時のみ 会費 五〇〇円也

※事前予約制 詳しくは三面をご覧ください

合同大般若法要

七月二十五日(日)

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

※法要は僧侶のみで行います、ライブ配信をご利用ください(詳しくは三面をご覧ください)

八月の行事 御縁日大法要

灯明講

八月二十日(金) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

※法要は僧侶のみで行います。ご信徒様におかれましては、ご自宅でのお勤め、またはライブ配

信をご利用ください(詳しくは三面をご覧ください)

ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中でも最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壱万円(一週間)
浴油祈祷 三千五百円(二週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp またメールをお送りください。